



ひかりのこつうしん No.2

2023. 5. 31

ひかりの子幼稚園

入園、進級の4月が終わり、新しい名札や、カラー帽子も見慣れてきました。子どもたちは新しいクラスで自分らしさを少しずつ発揮しています。

5月になり「今日から一人で行く」「今日からは泣かない」と決めて、門前でうちのの人に「バイバイ！」と手を振ることができる子どもの姿も見受けられます。しかしその一方で門からの長いアプローチを、一人でクラスまで行くことが心配なお子さんもあります。でも今はそれでいいと思っています。いつかきつと自分で決めて「行く」という日が来ます。その日を楽しみに待ちたいと思います。

登園バスも初めの頃はうちの人とのお別れが悲しくて、バス中に泣き声が鳴り響いていましたが、最近ではだいぶ落ち着いてきました。毎日顔を合わせる添乗の職員とも仲良くなり、隣の席のお友達の名前を覚えたり、おしゃべりが楽しくなっています。

ある日、バスに乗り込むなり「絵本袋持つのは嫌だ！」と、自分の絵本袋をバス内に放り投げるこうさぎさんがいました。添乗の職員も対応に困っていました。

しばらく続いていたある日、年長組のお兄さんが「1番！」と指を差し出し、「バスに乗るなら自分で絵本袋を持つ」「2番！」「絵本袋を自分で持たないならバスには乗らない」「さあどっち？」とこうさぎさんに話しました。

こうさぎさんは「1番！」と即答。

自分で絵本袋を拾い上げ、何もなかったかのように座りました。

このエピソードを両方の保護者の方にお話ししますと2人は同じバス停で、入園間もない頃、行き渡るこうさぎさんの手を引いてこひつじさんが「一緒に行こう！」と誘ってくれたから行けるようになったとの事。「本当におにいちゃんにお世話になったんです。」とお母さまが話してくださいました。

またこひつじ組の彼は昨年のこぼと組の時に「バスリーダー」に任命された経緯があり、「バスはただの乗り物でなく、一つのクラスと思い、『良くしたい』と願ったこの時の経験が、彼の中にあると思います。」とお母さんが言われて、とても感動しました。

大人が言っても事態が変わらないことでも、年上の人がかかわると、拍子抜けするくらいスムーズにいくことがあります。それは年上の人に憧れ、慕い信頼する気持ち、年下の子を慈しみ大切に思う気持ちが、園生活の中で自然と生まれるからだと思います。コロナ禍で人との繋がりが絶たれてしまいましたが、幼稚園の環境、人との関わりの中で「繋がり」が確実に育まれています。

「春のイチゴ狩り」「給食リーダー」「一緒に園内めぐり」「お散歩」「自由遊びの時間のお部屋訪問」「預かり保育」など、異年齢同士のつながりをこれからも大切にし、この繋がりの中で成長した子どもたちが、共に生きるやさしい社会の担い手となってほしいと願っています。



園長 松本 直子